令和7年度 自己評価書

学校名	和歌山市立宮前小学校
校長氏名	水本晃史
作成日	令和 8年 3月 7日

1 教育目標

健・心・知の育成

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	・全国学力学習状況調査及び児童質問紙 ・県学習到達度調査	・学校評価アンケート ・いじめアンケート ・日々の担任のみとり	・スポーツテスト ・保健室来室状況調査	・学校評価アンケート ・学校運営協議会 ・宮前地区子供を育てる協議会
重点目標【P】	・基礎・基本の定着 ・授業改善 ・家庭学習の定着 ・読書活動の推進	・人権教育の充実 ・いじめの未然防止、早期発見 ・仲間づくりの実施 ・体験活動の充実	・体力向上の推進 ・基本的生活習慣の確立 ・危機回避能力の育成	・家庭・地域との連携充実 ・幼小の接続、中学校区における学校間連携の推進 ・地域の資源活用の推進
取組の状況【D】	・粘り強く考える学習習慣の定着を図り、主体的で対話的な深まりのある授業を目指す。 ・「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」を徹底させた授業を行う。 ・発達の段階に応じた家庭学習の手引きを作成し「自学ノート」を活用するとともに、保護者と協力しながら定着を図る。	・教育活動全体を通して人権の視点を大切にし、人権感覚、人権意識を高く持つ。 ・いじめアンケートを年間に複数回実施し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。 ・児童会主催での活動で、子供同士が関わりつながり合う機会を増やす。	・「スポーツテスト」の結果よりソフトボール投げとシャトルランに課題があり、意識した取り組みを行った。 ・「早寝、早起き、朝ごはん」を推奨する。 ・地震や火災・津波・不審者対応の避難訓練や交通安全教室を計画的に行い、危機回避能力を育成する。	・各種便り、HP等を通して積極的に学校の情報を発信するとともに、授業や集会等を積極的に公開する。 ・地区懇談会や教育講演会等で、同和・人権に対する意識を高める。 ・幼小の接続、1小1中の連携を充実する。 ・民生児童委員との懇談会をもち情報交換を図る。
取組の成果と課題（評価結果【C】）	・昼学、朝読書は定着している。 ・個に応じた基礎学力向上のための指導を推進しているが、まだまだ学級差、個人差が大きい。 ・「書く力」「話す力・聞く力」を育てるため、各学年で研究授業を実施し、研究を深めた。	・児童会主催のあいさつ運動やドッジボール大会や鬼ごっこなど児童同志が関わりを深める活動ができた。 ・平和学習は、各学年ごとに創意工夫し、発達段階に合わせた取り組みを行った。	・避難訓練、不審者訓練は年間3回様々な場面を想定して行えた。 ・保健室来室状況からは、日常的に欠席者の多いことが課題である。	・「学校だより」を地域の回覧板を通じ配布し、情報発信に努めた。 ・地区懇談会は今年も1回に規模を縮小して行った。グループ協議を取り入れ、一人一人の意見を大切にできた。
次年度に向けての改善方法【A】	・子供の実態を深く見つめ、課題をとらえ必要な手立てを考える。 ・社会の変化を鋭くとらえ、先進的な取り組みに関心を持つ。 ・研究授業を基とした授業改善を図る。	・日々の学校生活の中から児童の豊かな心を醸成するため、職員の人権感覚を養う。 ・児童会活動や集会活動で異年齢の縦割り活動を充実させる。 ・地域に根ざした体験活動を考えたい。	・本年度、津波警報が出され、より、具体的な避難所運営をイメージする必要性を感じた。 ・様々な設定で避難訓練を行い、安全確保ができるよう努める。	・「学校だより」の配布を続ける。 ・民生児童委員との懇談会を継続する。 ・学校運営協議会でご意見をいただく。

3 その他の課題

◇・学校は楽しい学習の場として、また、どの子にも心地よい居場所として何が必要なのか、人的・物的に限りがある中でできる限り実現できるよう努めていきたいと考えます。課題としては、長年にわたり、基礎学力の向上と基本的生活習慣の徹底を柱に取り組んでいるが、目に見える成果はなかなか厳しい現状がある。今後も継続して取り組みを進めたい。また、個別に支援を要する子供たちが増えてきているため、その対応に迫られる必要性が年々増大してきているが、人的資源が足りないことも課題です。一方、家庭での教育力や携帯電話やゲーム機等の使い方に対する課題も見られる。今後も子供たちのため保護者・地域・学校が一丸となって取り組んでいきたい。